

新潟市歴史資料だより

発行 新潟市歴史文化課 歴史資料整備担当

平成28年11月1日

第 23 号

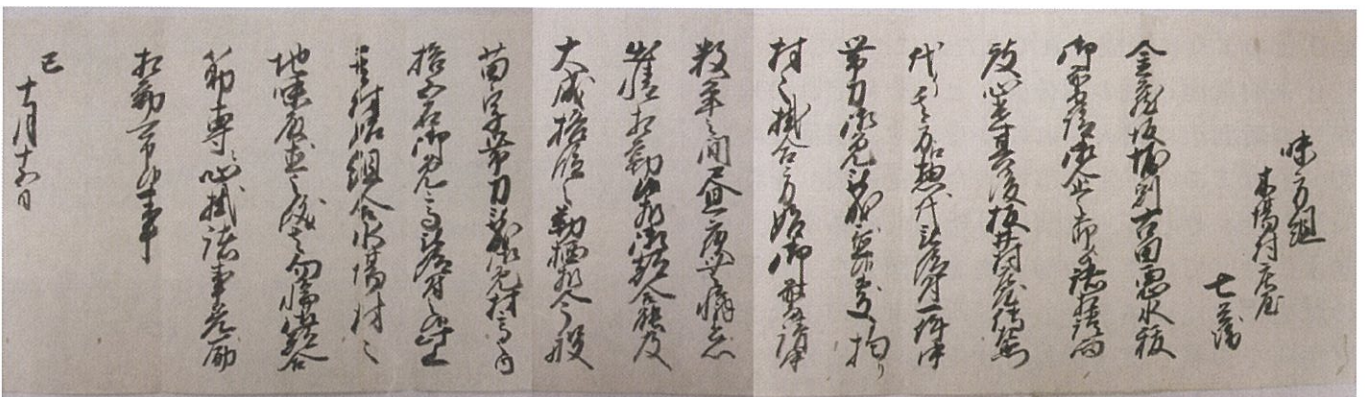
資料紹介 味方村古文書 ～新川開削の功績により苗字帯刀御免～

合併により、現在は歴史文化課が資料を引き継ぎ保管しています。掲載した資料は文政4（1821）年、木場村（西区）庄屋七兵衛が新川開削の功績により、村上藩から表彰された文書です。

水害常襲地帯であった三潟（鎧潟・田潟・大潟）周辺地域の悪水（農業生産に害を及ぼす湛水）を日本海へ放出するための堀割工事は、文化15（1818）年2月に着工しました。堀割の長さは大潟から五十嵐浜までの約2,500間（約4.5km）で、西川の底に木製樋管（底樋）を埋めて立体交差させるものでした。内野村（西区）裏手の金蔵坂と呼ばれる海岸砂丘の開削は特に困難を極めました。工事には長岡領と村上領の52か村が参加し、要した総費用は2万1,667両余、人足数は延べ165万2,700人でした。文政3年1月に通水したこの堀割は「新川」と呼ばれ、その後も何度か改修が行われました。

文政3年12月、長岡藩では新川の完成を祝い、工事関係者への褒賞を行いました。一方、村上藩ではそれより遅れて翌年10月に功勞庄屋の表彰が行われ、掲載した木場村のほか、亀貝村、板井村（以上西区）、茨島村（西蒲区）、次新村（燕市）の庄屋が褒賞を受けています。

掲載した資料によると、七兵衛は板井村庄屋萩野傳左衛門に代わって惣代を務め、関係する村々との交渉に奔走し、工事期間中は昼夜を問わずに出精し、その熱心な仕事ぶりにより「苗字帯刀御免」および「村高之内拾五石御免高」を頂戴しました。工事中は帯刀を許されていた七兵衛ですが、工事完成後の論功行賞により改めて苗字帯刀を許されるという名誉に預かったのです。当時、庄屋達は相互の書状のやりとりには苗字を名乗ることもありましたが、「御免」となれば公的な文書にも使用することができました。これ以降、七兵衛は公文書にも堂々と「山際」姓を名乗ることが可能となったのです。



味方組

木場村庄屋

七兵衛

金蔵坂堀割古田悪水抜

御普請御企之節より諸相談向

致心遣、其後板井村庄屋傳左衛門

代り其方江惣代被仰付、一件中

帯刀御免被成置候処、拘り

村々掛合方始、御普請中

数年之間、昼夜無懈怠

出精相働候故、御都合能及

大成、格段之勤柄故、今般

苗字帯刀被成御免、村高之内

拾五石御免高被仰付之候、此上

其村始組合水場村々

地味取直之儀者勿論、御都合

筋専二心掛諸事差励

相勤可申候事

巳
(文政四年)

十月十五日

事業紹介

増補改訂版『新潟市のあゆみ』の刊行について

歴史資料整備担当では、このたび平成19（2007）年4月に発行した『新潟市のあゆみ』の増補改訂版を刊行しました。これまでA4判・8ページのパンフレット形式だった『新潟市のあゆみ』は、A4判・40ページ、オールカラーの図録に衣替えしました。

全体構成は以下の通りです。

- ・新潟市の歴史 大地と自然・原始古代・中世・近世・近代・現代・政令市のあゆみ（現在）
- ・新潟市の歴史文化施設マップ
- ・新潟市各区の歴史 北区・東区・中央区・江南区・秋葉区・南区・西区・西蒲区
- ・近世（江戸時代末期）新潟市域の領分図
- ・近現代（明治～平成）新潟市域の合併変遷図
- ・新潟市歴史地図（市域の主な文化財）
- ・新潟市歴史年表
- ・主な参考文献
- ・資料を閲覧するには ～新潟市歴史文化課の利用案内

特徴は、平成の合併で政令指定都市になった新潟市域の歴史を年代順に記述した新潟市の通史を改訂し、現在（政令市のあゆみ）までを対象としました。そして、新たに新潟市8区のそれぞれの歴史（北区・東区・中央区・江南区・秋葉区・南区・西区・西蒲区）について、通史的に記述しました。

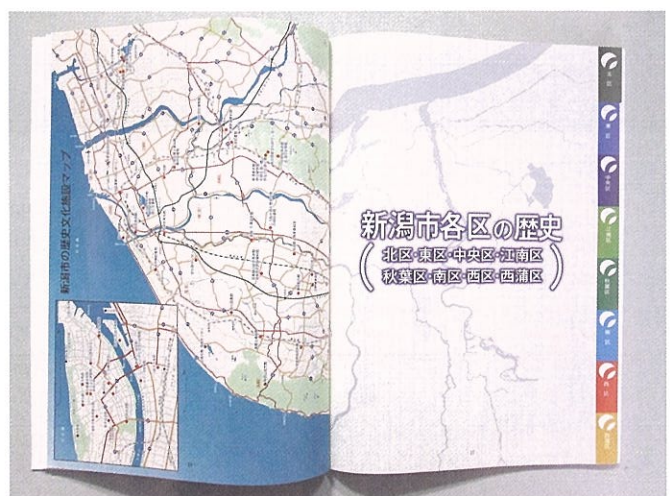
掲載図版では新たに、現在の新潟市域の行政区画がどのように形成されてきたかについて、「江戸時代末期新潟市域の領分図」と、それぞれの地域がいつ新潟市に編入されたかを示す、明治から昭和・平成までの「新潟市域の合併変遷図」を掲載しました。そして、以前の『新潟市のあゆみ』の巻末に付いていた「新潟市歴史地図」を「新潟市の歴史文化施設マップ」と、新潟市域の主な文化財情報を掲載した「新潟市歴史地図」に分離・拡大してわかりやすくしました。

表紙と裏表紙には、初夏の鳥屋野潟や雪の新潟税関庁舎など、新潟市域の四季折々の自然や景観と、代表的な文化財の美しい写真を配しました。

さらに、巻末には新潟市歴史文化課の利用案内を付け、利用日・利用時間、資料の閲覧・複写の方法、交通アクセスなどをご案内しています。ぜひとも新しい『新潟市のあゆみ』を活用して、新しい新潟市の歴史情報の発見や、皆様の学習等にお役立てください。入手方法については、歴史資料整備担当までお問い合わせください。



増補改訂版『新潟市のあゆみ』



「新潟市の歴史文化施設マップ」

新潟の歴史こぼれ話(9)

新潟町で過ごした若き日の原敬

平民宰相と呼ばれ、日本初の本格的な政党内閣を組織したことで知られる原敬は、若き日を新潟町で過ごしています。

明治7(1874)年4月、原敬が18歳の時、布教活動を行っていたフランス人宣教師エブラールの日本語学習の手助けと自らのフランス語学習のために新潟に来て、彼の従者となっています。

エブラールは、古町通12番町の本明寺ほんみやうじの境内にあった田村周囲医師の家を借り、住居を兼ねて教会としました。原敬もそこに住み込んで、庶務・会計を担当していました。

原敬は、新潟町で藤井久三(介石)が開いていた私塾(「自強校」のちの「不如学舎」)に入塾し、漢学を学んでいます。

新潟での原敬の生活の一端を、ともに新潟で過ごした実弟の原誠が書いた「原敬追想」から読み取ることができます。そこでは、原敬が誠らと日和山浜で地引網を見学し、そのまま招魂社を参拝して白山公園で休息したこと、天然痘にかかって高熱を出したことなどのエピソードが紹介されています。

原敬の新潟での生活は1年ほどでした。短い期間でしたが、エブラールを通じて新潟県令の楠本正隆に会ったり、『新潟毎日新聞』に「此地このちの情勢を慨嘆することあり」という題名で投書して掲載されたりするなど、将来政治家として活躍することを予感させるような充実した生活を送りました。

歴史文化施設紹介

常設展示をリニューアルした
新潟市北区郷土博物館

新潟市北区郷土博物館は、昭和43(1968)年に豊栄町博物館として開館し、56年現在地に移転しました。現在も北区唯一の博物館として親しまれています。

博物館では、昨年5月に常設展示の内容をリニューアルしました。新しい展示テーマは「阿賀北の大地と人々の暮らし」で、合併後の北区全体の歴史と風土を学ぶことができます。

区の歴史をまとめたコーナーでは、幕末期に活躍した北辰隊資料や、全国的にも有名な木崎村小作争議に関する資料などが展示され、北区のわたがわかりやすく紹介されています。

また、民具コーナーでは、越後平野最大の潟湖である福島潟周辺で実際に使用されていた漁具などが展示され、水と生活が深く結びついていた頃の人々の生活を感じることができます。

その他にも、北区出身の書家弦巻松蔭の迫力ある作品も間近で観賞することができます。

常設展示を一新した北区郷土博物館で、北区の魅力を見つけてみませんか。

所在地 新潟市北区嘉山3452番地

電話 025-386-1081

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、12/28~1/3

観覧料 無料



リニューアルした常設展示



福島潟民俗資料



写真紹介

内野、五十嵐浜の昔の風景

内野（西区）は、江戸時代後期の内野新川開削工事以降、それまでの農村から商工業者も集まり、西川と北国街道の交通の要として大きく発展してきました。近代になり内野は西蒲原郡内野郷の中心となり、昭和35（1960）年に新潟市と合併しました。現在は、周辺部に大学、高校などの文教施設や住宅地が広がっています。

今回は、この内野の町と新川、そして海岸部の五十嵐浜いからしはまの昔の写真を紹介します。

写真1 内野町は昭和28年12月に町中心部から出火し、強風にあおられ128戸が全焼しました。その後災害救助法が適用され区画整理も進み、沿道の家々が再建して町並みは復興しました。

写真は、大火後間もない昭和30年の盆の市です。焼け残った土蔵の屋根から二番町を撮ったものです。多くの屋台が出て、大勢の人々で賑わっている様子がうかがえます。

写真2 内野新川は、江戸時代の文政3（1820）年に完成しました。初めは西川の下に底樋そこひを入れてつくられ、その後大正期には暗闇あんこうが設置され、昭和期になると西川の水路橋がつけられました。

写真は、昭和29年に水路橋西側から下流を撮影したものです。新川堤桜並木は大正時代に植えられ、西川水路橋から大萩橋おほはぎまでの両堤にありました。内野の名所として桜祭りや屋台も出て、人々に親しまれました。その後昭和34年堤防の改修工事により、残念ながらこの桜は伐採されました。

写真3 五十嵐浜は、江戸時代末に刊行された『越後土産初編』に名物として「五十嵐 干鰯」と紹介されるなど、漁業で栄えました。

写真は、昭和25年の新川河口左岸のイワシ漁の船とイワシ網の干場の様子です。中央に見えるのは、当時河口にあった渚橋なぎさです。昭和46年に新川河口排水機場が通水すると、河口に近い渚橋は少し上流側に架け替えられました。現在は河口の隣に新川漁港が整備され、冬の水ダコ漁が有名です。



写真1 内野大火後の盆の市（二番町付近）



写真2 奥手山付近桜の花見（新川堤の桜）



写真3 渚橋と網干し場と漁船

市民の皆様へのお願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、教えてください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化スポーツ部
歴史文化課 歴史資料整備担当

〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425番地9
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp